

現場で読み解く 新 学習指導要領

5

道教大釧路校准教授

佐野 比呂己

公立 豊田高等学校国語科
教諭を経て現職。『豊かな言語活動の創造Ⅶ』(共著、2010年、東洋館出版)。1963年釧路市生まれ。



を明瞭にする書く能力を身につけさせることをねらいとしている。「こんな自分になりたい」というテーマのもと、マップ法により連想を広げ、相手意識を持たせ、言語化させる。言語化された文章は級友が推敲する。

作成を通して、記事の概要を把握、読者という相手を意識し、的確かつ効果的な表現を考えさせるに至る。本実践は、旭川東高のみならず、前任校の静内農高でも取り組んだもので、多様な学習者に対応する意味でも刮目に値する。

道立高教諭の国語科実践 「読者」意識させ表現力向上

(いづれも『国語論集8』
11年3月、道教育大釧路
校国語科教育研究室に所
収)

NIEを国語総合で実践して
増子優二

書くこと・読むことへの「見出し」の活用および評価に関する一考察
大村勲夫

大村先生は旭川東高教諭。学習者の意欲を喚起する授業づくりは全国的にも高く評価されている。

増子先生は留萌高教諭。本通信に何度も取り上げられた経歴を持つ、優れた実践家である。「国語総合」において「連想を広げ、関連を見つけてマップ法」という単元を構想し、三段論法(序論・本論・結論)により論理的に文章の展開を進め、結論

新聞の見出しという身近な題材を取り上げ、読解、鑑賞、表現の実践に取り組み。実際の見出しを提示して比較、読解させ、その機能・効果を確認させる。さらに、記事に見出しを作成させ、その上で学習者に相互評価させる。相互評価を生かし、別記事の見出しを再度作らせる。見出し

4月より小学校の学習指導要領が、来年度は中学校の学習指導要領が完全実施となり、2年後には高校が年次進行で実施される。中央教育審議会答申(08年1月)によれば、学習指導要領の主要な改善点として小、中、高間わず、7項目が列挙されている。その最初、「二丁目一番地」が「言語活動の充実」である。「言語活動の充実」の視点から小、中学校において多くの優れた実践が発表されているが、高校における実践は管見の限りごくわずかである。ここに二つの実践研究を紹介し授業づくり、単元づくりを考察したい。

編集後記

○…文部科学省が図書館への新聞配備を新たな「学校図書館図書整備5カ年計画」に盛り込み、総務省に地方財政措置を要望した。図書整備と併せて求めた新聞配備のための、初の予算措置。

○…背景に、図書館に新聞を置く学校の少なさがある。同省による学校図書館の昨年の調査で、新聞を置く小学校は16・9%、中学校は14・5%と低迷。新聞を活用した学習を行う環境が整っていないといわざるを得ない状況が続く。

○…日本新聞協会とNIE学会による実証研究でも取り組む必要と訴えている。授業でのワークシート活用など、新聞の新たな使い方を模索する先生も増え、触れ合える校内の環境づくりを期待したい。(大)



ワークシート集
妹尾さんが改訂
日本新聞協会の初代NIEコーディネーターでNIEコンサルタントの妹尾彰さんが「新NIE実践ヒント・ワークシート集」を発売した。写真。

2月セミナー
室蘭と帯広で
当協議会主催のNIEセミナーは、第8回室蘭・胆振セミナーが2012年2月4日(土)、北海道新聞室蘭支社(室蘭市幸町5の6)で、第10回帯広・十勝セミナーが同月11日(土)、十勝毎日新聞社(帯広市東1南

8)でそれぞれ開かれる。いずれも午後1時半からで、無料。参加申し込みは協議会事務局011・210・5802へ。
実践教諭による活動報告を行い、室蘭は室蘭市立海陽小の二宮孝行教諭、登別明日中等教育学校の坂根利香教諭ら4人、帯広は帯広市立栄小の田坂奈津子教諭、池田町立高島中の田中雄教諭ら4人がそれぞれ発表の予定。